

Robert Doisneau

ロベール・ドアノーと
時代の肖像 — 喜びは永遠に残る



ベルナール・ビュフェ美術館

2016年9月15日(木) - 2017年1月17日(火)

開館時間：9・10月 10:00 - 17:00 11・12・1月 10:00 - 16:30 (入館は閉館の30分前まで)

休館日：水曜日(祝日の場合は翌日休、ただし2016年12月26日[月] - 2017年1月6日[金]は休館)

入館料：大人：1000円(900円) / 高・大学生：500円(400円) / 中学生以下：無料 ※()内は20名様以上の団体割引料金

主催：ベルナール・ビュフェ美術館 企画協力：コンタクト 協力：アトリエ・ロベール・ドアノー

ロベール・ドアノーと時代の肖像

—喜びは永遠に残る—

ベルナール・ビュフェ美術館

2016年9月15日(木) - 2017年1月17日(火)

日常の小さなドラマを絶妙にとらえ、「イメージの釣り人」と評されるフランスの国民的写真家ロベール・ドアノー(1912-1994)。パリの恋人たちや子どもたちの豊かな表情、ユーモアや風刺の効いた街頭の一場面など、人間に対する無限の愛情と好奇心に満ちたドアノーがとらえた写真は、時代を超えて世界中で愛され続けています。写真家ロベール・ドアノーを語る上で欠かせない分野、それが「ポートレート」です。鋭い洞察力と観察眼に裏打ちされた

ドアノーによる芸術家のポートレート群は、ドアノー自身の「見る喜び」を見事に体現したものでもあります。本展では、同時代を代表する人々を写したポートレートを中心に、精選されたドアノーの代表作など、未発表作品を含む約140点を一堂に展示します。ロベール・ドアノーの眼差しを通して提示される同時代人たちの肖像は、写真の本質でもある「見る喜び」とともに改めて創造の喜びを私たちに伝えてくれるに違いありません。

ドアノーが手がけた「時代の肖像」

本展では、画家、彫刻家はもとより、パリが「芸術の都」であった時代に活躍した作家、思想家、舞踊家、美術批評家、デザイナーなどあらゆる分野の「時代の肖像」約70点を展示。未公開作品を含むこれらのポートレートを通して、当時の文化的背景を探ると同時に、ドアノーによる写真表現の真髄を紹介します。

1 アルベルト・ジャコメッティ、パブロ・ピカソ、ジャン・コクトー、イヴ・サンローラン、ベルナール・ビュフェ、フルナン・レジェ、レイモン・クノー、ジョルジュ・シムノン、クリスチャン・ディオール、セルジュ・リファールなど約60人のポートレイトを展示



《アトリエのアルベルト・ジャコメッティ》、パリ、1957年



《ベルナール・ビュフェ》、1953年



《「ドゥ・マゴ」のシモーヌ・ド・ボーヴォワール》、1944年



《ピカソのパン》、ヴァロリス、1952年



《パリ市庁舎前のキス》、1950年

3 もう一つのポートレート、 ジオノへのオマージュ

パリ郊外で生まれ育ち灰色の青春時代を送ったドアノーにとって、小説家ジャン・ジオノがプロヴァンスの自然の中で描き出す人間たちのドラマは常に憧憬の対象でした。1958年に撮影された一人の羊飼いを追ったルポルタージュ『ある羊飼いの物語』は、ジオノへのオマージュともいえる作品です。生前、ジオノとの邂逅がつかないままだったドアノーにとって、この羊飼いの物語はジオノのポートレートでもあるのかもしれませんが。ベルナール・ビュフェもまた、ジオノ著『純粹の探究』に深く共鳴し、ジオノの肖像画を描きました。本展では、二人の若い作家たちの人生と制作に多大な示唆を与えたジオノの肖像として、このシリーズを展示します。

2 ドアノー写真を代表する名作たち

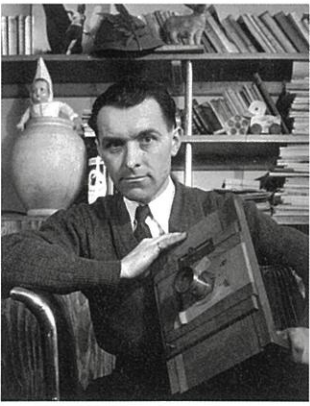
生涯を通じて約45万点にも及ぶ写真を撮影したドアノーの作品は、現在、遺族が設立したアトリエ・ロベール・ドアノーで管理されています。本展では、アトリエ・ロベール・ドアノーが膨大な作品から精選した代表作30点を展示。写真史にドアノーの名を刻ませた珠玉の名作から、ポートレイトの名手ドアノーの制作背景に迫ります。



《野営》、1958年7月

イベント お申し込みが必要です。ベルナール・ビュフェ美術館まで 電話055-986-1300

- 1. 講演「芸術家たちへのドアノーのまなざし」
フランシヌ・ドルディル氏
- 2. 朗読会+対談「他者に映る自画像」
クレモンティーヌ・ドルディル氏×堀江敏幸氏



《ロベール・ドアノーのセルフ・ポートレート》、1948年



© Françoise Dollier



© Clemence Dollier



© Clemence Dollier

ドアノーの次女であるフランシヌ・ドルディル氏は、長女アネット・ドアノー氏とともにアトリエ・ロベール・ドアノーを設立。膨大な写真の管理と紹介に尽力しています。2008年に出版された『芸術家たちの肖像』の編集においても重要な役割を果たしました。本講演では、幼少期からドアノーのモデルでもあったドルディル氏に、ポートレイトを通して見る写真家ドアノー、当時の芸術家たちとの交流についてお話をうかがいます。

日時：2016年9月17日(土) 13:30-15:00
会場：クレマチスの丘ホール
料金：無料 定員：200名
言語：フランス語(通訳有)

ドアノーの孫であるクレモンティーヌ・ドルディル氏は、2014年、ジオノゆかりの地マノスクで開催したドアノーの写真とそのテキストの朗読を巧みに組み合わせたイベントは大きな評判となりました。本イベントでは、作家でありドアノーのテキストを集めた『不完全なレンズで』日本語版翻訳者でもある堀江敏幸氏を迎え、フランスでの朗読会を本展のために再構成。朗読会に続いて、お二人の対談を行い、言葉に対しても鋭い感性を持っていたドアノー像についてお話いただきます。

日時：2016年12月4日(日) 14:00-16:00
会場：クレマチスの丘ホール
料金：無料 定員：200名
言語：フランス語(通訳有)

書籍刊行予定 本展に関連して、展覧会カタログ『ロベール・ドアノーと時代の肖像—喜びは永遠に残る—』を刊行予定です。詳細は今後ウェブサイトにてご案内します。

Bernard Buffet

ビュフェと1940-50年代 不条理に対峙する絵画

2016年9月10日(土) -
2017年3月5日(日)

ベルナール・ビュフェ美術館では「ロベール・ドアノーと時代の肖像—喜びは永遠に残る」展期間中、展示作品を一部入れ替え、コレクション企画展「ビュフェと1940-50年代 不条理に対峙する絵画」を引き続き開催いたします。本展では、若き奇才として1940年代後半にデビューしたビュフェの貴重な初期作品を所蔵する当館コレクションの代表作を余すことなく見ていただくと同時に、ビュフェが批評家や親しい人々を描いたポートレート作品も展示します。同時代を生きたビュフェとドアノーが描き出した時代の肖像をあわせてご覧ください。



《自画像》、油彩、1946年



《女の顔》、油彩、1950年

開館時間

9・10月 10:00 - 17:00
11・12・1月 10:00 - 16:30
2・3月 10:00 - 17:00 (入館は閉館の30分前まで)

入館料

大人：1000円 (900円)
高・大学生：500円 (400円)
中学生以下：無料
※()内は20名様以上の団体割引料金

休館日

水曜日(祝日の場合は翌日休、ただし2016年12月26日[月] - 2017年1月6日[金]は休館)

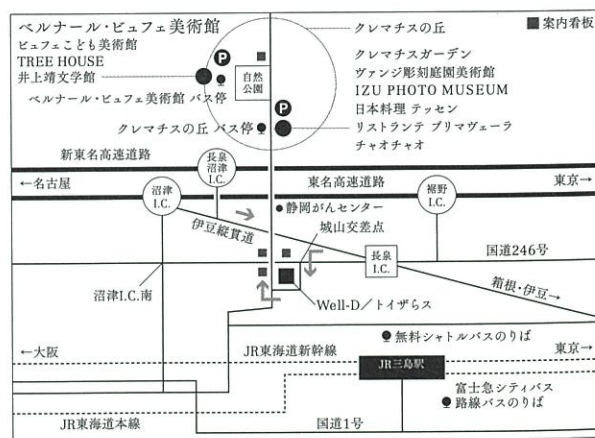
アクセス

●お車の場合

東京方面：東名裾野I.C.よりR246経由、沼津方面へ10km
名古屋方面：新東名長泉沼津I.C.あるいは東名沼津I.C.より
伊豆縦貫道(東駿河湾環状道路)へ、長泉I.C.出口R246右折/新東名長泉沼津I.C.より5km

●電車の場合

JR東海道線「三島駅」下車、北口3番乗り場発、無料シャトルバスあり(所要時間25分)
※無料シャトルバスの時刻表は美術館HPにてご確認ください。



ベルナール・ビュフェ美術館

411-0931 静岡県長泉町東野クレマチスの丘515-57
Tel. 055-986-1300 / Fax. 055-987-5511 <http://www.buffet-museum.jp>

IZU PHOTO MUSEUM 展覧会情報 「Jochen Lempert (ヨヘン・レンペルト)」展

2016年10月28日(金) - 2017年4月2日(日)・予定